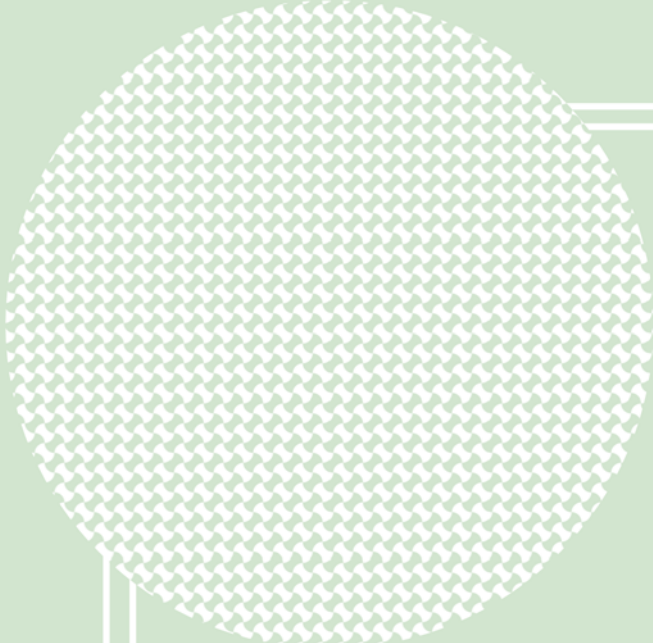




第 2 章

基本計画

【前期 令和 7 年度～11 年度】



—第2章 基本計画の見方—

本章では、基本構想で掲げた基本目標を実現するため、分野ごとにテーマを設け、課題・基本方針と対応する主な取組、重要業績評価指標、SDGs との関係性を示します。

基本目標の分野テーマ

基本目標ごとに取り組むテーマを記載しています。

課題・基本方針

分野テーマに関する近年の現状課題と、それらを踏まえた基本方針を記載しています。

I-1 次世代が希望をもてるまち

【課題・基本方針】

内子町では、働きながら安心して子育てができる環境づくりや、相談しやすい体制づくり、経済的支援策の推進などに取り組んできました。しかし、出生率の低下や生産年齢人口の減少、未婚率の上昇など、人口減少の進行を止めることは困難となっています。加えて女性の社会進出に伴い共働き世帯が増加し、仕事と出産・子育ての両立は難しい状況です。さらに子どもを育てる環境としても、生活圏域における将来的な医療体制への存続の懸念や、急病時など頼れる人が近くにいないこと、それに代わる行政サービスの少なさ、日常的に子どもが安心して遊べる公園などの少なさなどが挙げられます。こういった現状は若い世代に将来への不安をもたらしています。

今後は、これまでの施策の推進はもとより、若い世代や子育て世代が将来に希望を持てるよう、住み続けたいと思えるよう後押ししていきます。特に、妊娠前からの切れ目のない経済支援の充実や、多様な家族のあり方に応じた支援体制の強化、安心して子育てできる環境の整備を進めます。同時に次世代を担う子どもの健やかな成長を促すための環境の整備を充実させます。また支援やサービスが必要とする人への的確な情報発信や、子育て世代に選ばれるまちとなるよう対外的に子育て支援のイメージのアピールを促進します。



保育園や子ども園による
子育て世帯を支援

子育て支援センターなど
支援・相談窓口を充実



【主な取組】

(1) 子育て世代が住みやすいまちづくり

- 子育て世代や子どもの意見を反映した子育て世代の定住につながるようなまちづくりを進めます。
- 内子町こども家庭センターが核となり、対象者に寄り添った切れ目のない支援を行います。
- 総務、保健、教育、福祉部門が連携し一体的な支援を推進します。
- 安心して子育てと仕事の両立ができるよう、町内企業へひめボス^①の取り組みを働きかけるなど、子育てしやすい環境の充実に取り組みます。
- 「子育て支援のまち」としてシティプロモーションにも取り組みます。
- 出会いや結婚を支援するための取組を推進します。

関連事業：こども家庭センター機能の充実／ひめボスの推進／町内施設の建て替え／婚活イベントの活用化 ほか

(2) 子育て世代への経済的支援の充実

- 各家庭が理想とする子どもの人数を実現できるように、子育てに対する切れ目のない経済的な支援をさらに、子育てに対する負担感を減らします。
- 各種補助事業等の紹介を行うとともに、子育ての過程に応じた支援に取り組みます。
- その他、子育て世代が必要とする支援策について検討します。

関連事業：内子町子ども医療費助成事業／うちこ子育て支援事業／第3子以降の保育料助成／内子町保育所保育補助金交付事業／特定不妊治療・不育症治療費助成事業／子どもインフルエンザ助成金／産後ケア事業／子育てヘルパー派遣事業 ほか

(3) 子育て環境の充実

- 子どもの成長や発達について、気軽に相談できる環境づくりに努めます。
- 安心して子育てと仕事の両立ができるよう、病児・病後児保育など保護者が子育てしやすい環境の充実に取り組みます。
- 障がいのある児童がいる家庭であっても安心して子育てできるように町内に「放課後等デイサービス事業所」の新設に向けた社会福祉法人等との協議を進めます。
- 保育士の確保をはじめ、子育てにかかわる人材の育成など体制強化に取り組みます。
- 妊娠から出産まで切れ目のない支援体制の更なる構築に努めます。また、発達支援・いじめ・不登校対策・児童虐待対策、ヤングケアラー対策等の強化を行い、誰一人取り残さないように取り組みます。

関連事業：保育事業／内子町特別支援連携協議会／巡回相談事業／子育て支援サービスの充実／低年齢児の遊べる公園整備／うちこいじめSTOP会館の開設／ふれあいルーム（教育支援センター）事業／U/I ターン保育士等支援事業費補助金／育児相談・乳幼児健康診査事業／フック物産口事業／乳児家庭全戸訪問事業 ほか

^① ひめボス：若年層の転出転入の解消に向け、県内企業・事業所が男女を問わず選択される魅力的な職場へ定着・成長できるように、女性活躍推進、仕事と家庭の両立支援等に取り組んでいる企業等を認定する制度。

主な取組

分野テーマを具体的に推進していくための方向性と関連事業を記載しています。

重要業績評価指標

取組状況を数値的に評価し、達成度合いを図るための指標を記載しています。
特に記載がない場合の現状値は令和5（2023）年度の数値を採用しています。

【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
出生者数の維持（単年度）	52人	60人
こども家庭センターの相談対応件数（単年度）	—	20件
障がい児通所支援施設の設置	0カ所	1カ所
内子町総合福祉センター（仮称）の設置	0カ所	1カ所

【SDGs 17の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
1 貧困をなくそう	切れ目のない子育ての経済的支援	10 人や国々、民族、宗教、階級、国籍を超えて結束し、公平で包摂的な社会を構築しよう	安心して子育てできる相談体制の充実
3 健康な生活と長寿を促そう	子どもたちが健やかに成長できる取組の推進	11 持続可能な都市を築こう	安全な子育て環境の整備
4 質の高い教育をみんなに		16 平和と公正な社会を築こう	虐待などあらゆる暴力がなく必要な教育やサービスが受けられる環境の整備
5 男女がともに平等に参画し、進歩しよう	男女ともに子育てに参画しやすい環境整備の促進	17 持続可能なパートナーシップを構築しよう	SDGsを意識した取組の推進
8 働きがい、経済成長、雇用を創出しよう	子育てと仕事の両立への支援		

総合戦略について

各分野テーマにおける重要業績評価指標は、総合戦略におけるKPIと同じとします。

SDGs 17の目標との関係性

分野テーマに対応するSDGsの目標と考え方を記載しています。

基本目標Ⅰ

ひとつづくり





I -1

次世代が希望をもてるまち

I -2

故郷を愛する心や社会を生きぬく力を育むまち

I -3

生涯を通して多様な学びのあるまち

I-1 次世代が希望をもてるまち

【課題・基本方針】

内子町では、働きながら安心して子育てができる環境づくりや、相談しやすい体制づくり、経済的支援策の推進などに取り組んできました。しかし、出生率の低下や生産年齢人口の減少、未婚率の上昇など、人口減少の進行を止めることは困難となっています。加えて女性の社会進出に伴い共働き世帯が増加し、仕事と出産・子育ての両立は難しい状況です。さらに子どもを育てる環境としても、生活圏域における将来的な医療体制への存続の懸念や、急病時など頼れる人が近くにいないこと、それに代わる行政サービスの少なさ、日常的に子どもが安心して遊べる公園などの少なさなどが挙げられます。こういった現状は若い世代に将来への不安をもたらしています。

今後は、これまでの施策の推進はもとより、若い世代や子育て世代が将来に希望を持てるよう、住み続けたいと思えるよう後押ししていきます。特に、妊娠前からの切れ目のない経済支援の充実や、多様な家族のあり方に応じた支援体制の強化、安心して子育てできる環境の整備を進めます。同時に次世代を担う子どもの健やかな成長を促すための環境の整備を充実させます。また支援やサービスを必要とする人への的確な情報発信や、子育て世代に選ばれるまちとなるよう対外的に子育て支援のイメージのアピールを促進します。



◀ 保育園やこども園による
子育て世帯を支援

子育て支援センターなど ▶
支援・相談窓口を充実



【主な取組】

(1)子育て世代が住みやすいまちづくり

- 子育て世代や子どもの意見を反映した子育て世代の定住につながるようなまちづくりを進めます。
- 内子町こども家庭センターが核となり、対象者に寄り添った切れ目ない支援を行います。
- 総務、保健、教育、福祉部門が連携し一体的な支援を推進します。
- 安心して子育てと仕事の両立ができるよう、町内企業へひめボス^{※8}の取組を働きかけるなど、子育てしやすい環境の充実に取り組みます。
- 「子育て支援のまち」としてシティプロモーションにも取り組みます。
- 出会いや結婚を支援するための取組を推進します。

関連事業：こども家庭センター機能の充実／ひめボスの推進／町内施設の建て替え／婚活イベントの活発化 ほか

(2)子育て世代への経済的支援の充実

- 各家庭が理想とする子どもの人数を実現できるように、子育てに対する切れ目のない経済的な支援をさらにを行い、子育てに対する負担感を減らします。
- 各種補助事業等の紹介を行うとともに、子育ての過程に応じた支援に取り組みます。
- その他、子育て世代が必要とする支援策について検討します。

関連事業：内子町子ども医療費助成事業／うちこ子育て支援事業／第3子以降の保育料無償化／内子町修学旅行費補助金交付事業／特定不妊治療・不育症治療費助成事業／子どもインフルエンザ助成金／産後ケア事業／子育てヘルパー派遣事業 ほか

(3)子育て環境の充実

- 子どもの成長や発育について、気軽に相談できる環境づくりに努めます。
- 安心して子育てと仕事の両立ができるよう、病児・病後児保育など保護者が子育てしやすい環境の充実に取り組みます。
- 障がいのある児童がいる家庭であっても安心して子育てできるように町内に「放課後等デイサービス事業所」の新設に向けた社会福祉法人等との協議を進めます。
- 保育士の確保をはじめ、子育てにかかわる人材の育成など体制強化に取り組みます。
- 妊娠から出産まで切れ目のない支援体制のさらなる構築に努めます。また、発達支援・いじめ・不登校対策・児童虐待対策、ヤングケアラー対策等の強化を行い、誰一人取り残さないよう取り組みます。

関連事業：療育事業／内子町特別支援連携協議会／巡回相談事業／子育て支援サービスの充実／低年齢児の遊べる公園整備／うちこいじめSTOP会議の開催／ふれあいルーム（教育支援センター）事業／UJI ターン保育士等支援事業費補助金／育児相談・乳幼児健康診査事業／フッ化物洗口事業／乳児家庭全戸訪問事業 ほか

⁸ ひめボス：若年層の転出超過の解消に向け、県内企業・事業所が男女を問わず選択される魅力的な職場へ変革・成長できるように、女性活躍推進、仕事と家庭の両立支援等に取り組んでいる企業等を認証する制度。

【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 11 年度)
出生者数の維持（単年度）	52 人	60 人
こども家庭センターの相談対応件数（単年度）	－	20 件
障がい児通所支援施設の設置	0 カ所	1 カ所
内子町総合福祉センター（仮称）の設置	0 カ所	1 カ所

【SDGs 17 の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
 1 貧困をなくそう	切れ目のない子育ての経済的支援	 10 人や国の不平等をなくそう	安心して子育てできる相談体制の充実
 3 すべての人に健康と福祉を	子どもたちが健やかに成長できる取組の推進	 11 住み続けられるまちづくりを	安全な子育て環境の整備
 4 質の高い教育をみんなに		 16 平和と公正をすべての人に	虐待などあらゆる暴力がなく必要な教育やサービスが受けられる環境の整備
 5 ジェンダー平等を実現しよう	男女ともに子育てに参画しやすい環境整備の促進	 17 パートナシップで目標を達成しよう	SDGs を意識した取組の推進
 8 働きがいも経済成長も	子育てと仕事の両立への支援		

I-2 故郷を愛する心や社会を生きぬく力を育むまち

【課題・基本方針】

町内小・中学生の学力については、全国学力・学習状況調査や県学力診断調査などの結果から、小・中学生ともに基礎的・基本的な学力の定着に成果が出ている一方で、「自分の考えをまとめて表現する」問題の正答率が低く、キーパーソンヒアリングからは全体的にコミュニケーション力が弱いという状況もみられました。また、GIGA スクール構想^{※9}の導入や小学校の外国語活動の充実など、子どもの学びの多様化が加速しています。加えて町内中学校の部活動については、生徒数の減少により選択肢が限られ、また拠点校部活動^{※10}の開始や部活動地域移行などの過渡期にあります。これら子どもたちを取り巻く環境の変化は、同時に教職員の負担増加にもつながっています。

一方で、これまで取り組んできたふるさと教育に加えて、町内全域にコミュニティ・スクールを展開し、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ、地域とともにある学校づくりに取り組み、郷土愛の醸成が図られています。また、内子町内には内子高校と小田分校の2つの高等学校があり、地域で高等教育を受けられる環境は地域の強みといえます。

今後は、「質の高い教育」の実現に向けた教育体制の整備や、子どもたちの確かな学力の定着・向上をはじめ、ふるさと教育や様々な人との交流を通し“故郷を知り愛する心”や、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を養い“予測困難な社会の中を生きぬく力”など、これから生きる子どもたちに必要な能力を身につけるための取り組みを進めていきます。

⁹ G I G A スクール構想：Global and Innovation Gateway for All の略。「児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」のこと。

¹⁰ 拠点校部活動：自分の通う学校にない部活動でも、内子町内の学校にある部活動を選択できる仕組みがある部活動のこと。

【主な取組】

(1)確かな学力の向上

- 「内子町学力向上推進プラン」に基づき、信頼構築を基盤とした授業改善に取り組み、子どもたちの学力向上を推進します。
- 学習教室「学び舎」の実施に基づき、一人一人に応じた子どもたちの学びを支援します。
- 学校・家庭・地域が連携したコミュニティ・スクールの取組を生かして、“ふるさと教育”を軸とした思考力・判断力・表現力を育成します。
- 部活動の地域移行を進めながら、子どもたちの自主性、自発性をさらに引き出すとともに、ふるさとの人材や素材を生かすことによってスポーツ・文化芸術活動をより豊かにし、幅広い分野で活躍する基盤となる「人間力」を高めます。

関連事業：「内子町学力向上推進プラン」の推進／コミュニティ・スクールの推進／部活動地域移行の推進 ほか

(2)英語教育の推進

- ALT（外国語指導助手）による英語教育の充実に向け、ALT を増員し、児童生徒の日常的・実用的な言語活動の機会を広げ、学びの拡充を図ります。
- 教員の英語教育に関する研修の充実や、小学校外国語活動推進校の取組を充実します。
- 中学校英語弁論大会や英検受験料補助等に引き続き取り組みます。

関連事業：外国語活動に関する取組の充実／英検受験料の補助／ALT の充実活用 ほか



小学校でもALTによる
英語活動を実施

(3)ふるさと教育のさらなる充実

- 現在取り組んでいるふるさと教育関連事業（内子町小・中学生俳句大会、内子町を描こう写生展、手漉き和紙卒業証書、小田深山体験活動、ジョブチャレンジ U-15 事業）を充実します。
- コミュニティ・スクールを推進します。
- 部活動地域移行に併せ“ふるさとのよさを広げ伝える”取組を軸とした「総合文化・科学部」を創設します。
- 地場産品を活用した料理等への児童生徒の関心を深め、食文化、地元特産品及び地域の産業について学ぶ食育を推進します。

関連事業：ふるさと教育関連事業の充実／コミュニティ・スクールの推進〔再掲〕／部活動地域移行の推進〔再掲〕／内子町学校給食地産地消推進事業 ほか

(4)教育体制の整備

- 学校と保護者等間における連絡手段について、Web アンケートフォーム等を活用したデジタル化を図ります。
- 教員に代わって資料作成や授業準備等、教員がより児童生徒への指導や教材研究等に注力できるように教員をサポートする、スクール・サポート・スタッフの配置と拡大を行います。
- EILS（えひめ ICT 学習支援システム）の活用を推進します。

関連事業：事務作業の ICT 活用や教育 DX の推進／スクール・サポート・スタッフの配置 ほか

(5)町内高校との連携強化

- 内子高校小田分校の存続を最重要課題とし、生徒確保のため、地域みらい留学全国公募等の活動支援を行います。
- 小田分校振興対策連絡協議会への支援を継続し、教育魅力化コーディネーター等、多角的な視点を持った外部人との連携による多様な希望進路に対応します。
- 小田分校寄宿舎の生活管理を徹底し、分校との連携強化を図るとともに、寮生が気軽に悩みなどを相談できる体制を構築します。
- 内子高校本校に「教育魅力化コーディネーター（地域おこし協力隊）」の設置等外部人材の活用による魅力化を図るなど、域内で高等教育を受けられる環境の存続を目指します。
- 地域の人とのふれあいや幼・小・中・高の連携など、特色ある取組を進め、ひいては地域の活性化や魅力の創出を図ります。

関連事業：教育魅力化コーディネーター（地域おこし協力隊）の設置 ほか

【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和5年度)	目標値 (令和11年度)
学習教室「学び舎」の開設	8校	11校
ALT（外国語指導助手）の配置数	4人	8人
英語検定受験率（単年度）	約85%	約90%
内子産野菜類の学校給食での使用実績 （重量ベース）（単年度）	約50%	約70%
スクール・サポート・スタッフの配置	1人	5人
外部人材（地域おこし協力隊）の導入	—	1人

【SDGs 17の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
 4 質の高い教育を みんなに	確かな学力の定着、「ふるさと教育」や「予測困難な社会を生きぬく力の育み」の実施	 17 パートナリシップで 目標を達成しよう	SDGsを意識した取組の推進



◀ 地域の伝統文化を地域の方から学ぶ

恒例の田植え体験 ▶



I-3 生涯を通して多様な学びのあるまち

【課題・基本方針】

世界各地では今もなお最大の人権侵害とされる戦争や紛争が続いています。また同和問題をはじめ、性別、高齢者・障がい者などの社会的弱者、外国人、性的少数者などをめぐる様々な人権問題が今も残っています。すべての人が人権を享有し、平和で豊かな社会を実現するためには、認め合い、互いの人権を尊重し合う意識を持つことが必要です。そういった基本的人権の尊重された社会のもと、より豊かに暮らすためには、生涯を通した多様な学びが不可欠です。しかし、町内の生涯学習活動においては、情報化社会の発達や価値観の変化などにより、参加者の固定化や若い世代の活動離れが起こっています。ひいては活動のマンネリ化や活動団体の縮小につながっています。

今後は、生涯学習事業の魅力化に向けた見直しや、次世代への学習機会の提供、情報発信などの広報活動、各種団体や外部人材との連携などを進めます。また、内子町は、沖縄県宜野座村と姉妹町村提携盟約を結び、伝統芸能等を通した異文化体験などの交流を行ってきました。加えて歴史的な町並みの保存をきっかけにドイツ・ローテンブルク市と姉妹都市盟約を締結しており、その交流事業は内子町の国際交流や国際理解教育の強みとなっています。生涯における多様な学びの中で、世代間交流や文化交流、国際交流等を通じて、住民の「主観的な well-being」向上を目指すとともに、地域への関心向上・活動参加の促進を図ります。



約 40 年続くドイツ・ローテンブルク市との交流

【主な取組】

(1)人権教育の推進

- 人権教育や啓発活動、虐待やいじめなどを防ぐ支援体制の充実を図り、住民一人一人が互いの違いを認め、互いの人権を尊重し合う「人権尊重のまちづくり」を実現します。
- 性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会のさらなる実現を目指します。
- 人権問題を自らの問題と受け止め、偏見や差別のない社会の実現に向けて主体的に取り組める人材を育成します。

関連事業：人権教育・啓発活動の推進／福祉館人権講座 ほか

(2)国際教育の推進

- 国際交流活動・国際理解教育事業やローテンプルク市との交流事業の推進に引き続き取り組むとともに、親子参加型のイベント実施など住民を巻き込んだ国際交流事業のあり方を検討します。
- 国際交流協会との連携強化を進めます。

関連事業：国際交流事業の推進／国際交流協会との連携強化 ほか

(3)生涯学習の充実・推進

- 文化団体やスポーツ団体など幅広く団体活動への支援を行います。
- 若い世代へ向けた生涯学習の実施や住民のニーズにあった参加しやすい講座内容や開催方法について検討実施します。
- 生涯学習活動に参加しないと損！と思えるよう、町ホームページや SNS 等を用いた周知・広報を行います。
- ノウハウや新しい視点のある人（地域おこし協力隊など）と連携して事業を企画・更新します。
- 学校部活動の教育的意義を継承・発展しつつ、将来にわたり継続してスポーツ・文化芸術活動に親しむ環境を整えるため、地域のスポーツ・文化芸術団体、学校関係者の理解と協力のもと、地域クラブ活動の運営団体の組織づくりを進めます。
- 宜野座村との交流を促進します。

関連事業：宜野座村との交流事業／部活動地域移行の推進[再掲] ほか

【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 11 年度)
地域ぐるみ人権・同和教育学習会の推進	36 自治会 9 サロン	41 自治会 15 サロン
国際理解講座の開催（単年度）	4 講座	6 講座
姉妹都市ローテンブルク市との交流 （青少年海外派遣事業を含む）（単年度）	0 回	1 回以上
地域クラブ運営団体の設立（部活動地域移行）	－	1 団体
姉妹町村宜野座村との交流 （青少年・伝統芸能団体等）（単年度）	1 回	1 回

【SDGs 17 の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
 4 質の高い教育を みんなに	生涯にわたる質の高い教育の提供	 11 住み続けられる まちづくりを	地域課題への関心の向上や活動への参加の促進
 5 ジェンダー平等を 実現しよう	男女共同参画社会のさらなる実現	 17 パートナースhipで 目標を達成しよう	SDGs を意識した取組の推進



幅広い年代で楽しめるモルック